



(参考仮訳)

プレスリリース No. 10/477
即時解禁
2010年12月16日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントン DC

IMF 総務会、クォータ及びガバナンスの抜本的改革を承認

国際通貨基金 (IMF) の総務会は、IMF のクォータ (出資割当額) 及びガバナンスの抜本的な改革パッケージを承認した。2010年12月15日に終了した投票において、総議決権の95.32%を代表する総務が、クォータ及び理事会の改革に関する決議に賛成票を投じたことで、承認に必要な85%を上回った。総務会承認に続く次のステップは、加盟国によるクォータ増額案及びIMF協定の改正の批准である。加盟各国は、2012年10月の総務会年次総会までに同作業を完了させるべく、最大限の努力を払うことが期待されるが、多くの場合議会の承認が必要となる。

ドミニク・ストロスカーン IMF 専務理事は「今回の投票結果は、この度の一連の歴史的改革への加盟国の幅広い支持を示すものである」と述べた。「全ての加盟国が、同意された期間内に同改革の実施に必要な措置を早急に進めることを期待する」

この度承認された決議は、IMF 理事会が11月5日にIMF 総務会に提言したもので ([Press Release No. 10/418](#))、IMF のクォータ及びガバナンスの改革パッケージに関するものである。これらの改革はIMF のボイス (投票権) 及びガバナンスの大々的な改革につながり、IMF の正当性と実効性を高めると期待される。

決議が採択されたことで、第14次クォータ一般見直しが完了し、結果、クォータが倍増され、約4,768億SDR (約7,339億米ドル)¹に達することになるが、クォータが倍増された例は過去にはない。また加盟国間でのクォータ・シェアの大規模な再調整も行われることになる。同決議が発効となった場合、最貧国のクォータのシェアと議決権を保護する一方で、クォータのシェアがダイナミックな新興市場及び途上国へ6%以上、また、過大評価されていた国から過小評価されていた国へ6%以上移行されることになる。さらに総務会は、IMF 協定の改正も承認しており、加盟

¹ 2010年12月15日のMERを基に算出。対米ドルで0.649724SDR。

国を一段と適切に代表し、選任理事に一本化された理事会の誕生に向け前進することになる。

今般の改革は、2008年に開始されたものを基盤としたもので（[Press Release No.08/93](#)）、これら初期の措置と合わせ、新興市場及び途上国のグループとしての議決権シェアが、5%ポイント以上拡大することになる。IMFにおける議決権シェア上位10カ国は、米国、日本に加え「BRICs」各国（ブラジル、中国、インド、ロシア）及び欧州四大国（フランス、ドイツ、イタリア、英国一表）となる。同改革において、クォータのシェアの順位の大規模な再調整が行われるが、これによりIMFはより適切に世界の現状を反映した機関になる。

付属文書

IMFの最高意思決定機関は**総務会**である。総務会は各加盟国により任命された総務1名により構成される。総務は通常、加盟国の財務相または中央銀行総裁が務める。IMFの権限の大半は総務会に付与されているが、一部を除き権限を理事会に委譲している。総務会は通常年に一度開催される。

理事会は、定期的に会合を行いIMFの日常業務を執行する責任を持つ。理事会は、加盟国により任命（5名）或いは加盟国のグループにより選任（19名）された理事24名、並びに専務理事によって構成され、専務理事が議長を務める。理事会は通常毎週数回開催され、主にIMFのマネジメント及びスタッフが作成したペーパーを基に、その業務を遂行する。

IMFの各加盟国は、主に世界経済における相対的規模を基に、**クォータ**が割り当てられる。各国が払い込むクォータがIMFの融資財源の主な原資である。各国のクォータは、IMFに対する各国の資金面でのコミットメントの上限や議決権を定めるものであり、またIMF融資へのアクセスに影響する。

参考:

IMF理事会、クォータ及びガバナンスの大規模な改革を承認

<http://www.imf.org/external/np/sec/pr/2010/pr10418.htm>

IMFクォータ及びガバナンスに関する文書

<http://www.imf.org/external/np/fin/quotas/pubs/index.htm>

クォータ・ファクトシート

<http://www.imf.org/external/np/exr/facts/quotas.htm>

クォータ・議決権シェア案一加盟国別

http://www.imf.org/external/np/sec/pr/2010/pdfs/pr10418_table.pdf

IMF の意思決定

<http://www.imf.org/external/np/exr/facts/govern.htm>